

製本のススメ

Vol. 82

暦の上では既に冬ですが、ようやく晩秋という感じですね。最近、身近に咳き込む人が増えたと思いませんか？インフルエンザには要注意ですね。

今回は**手帳**の話し

年末から年度末にむけて手帳を作りたいというお客様も増えると思いますが、製本の中にも『**手帳部門**』と**区別があるほど、通常の並製本とは加工が異なります**。手帳と一口にいても、ダイアリーから生徒手帳・規約集など様々で、それぞれに独特な加工方法があり、単純に糸綴り製本とはいきません。表紙もビニール製の物から上製タイプの物と、文具・書店にならぶ種類の多さを見ても、おわかりと思います。

多くの場合 サイズが小さいので『二丁掛け(二面掛け)』にて版をつけて、巻き八つ折で進みますが、**部数が少ない場合には本掛け 8 頁・16 頁でも加工が可能です**。上製本で用いられる技術と、並製本で用いられる技術との両方が必要で、特に印刷面付では、**ドブ幅を広く取らないと効率の良い製本に繋がりません**。つまり納期に間に合わないという結果にたどり着きます。

さて、**手帳加工で特徴があるのは見返しのベタ貼り**です。並製本での見返しは小口にのみ糊がつきますが、手帳では表2と見返しの効き紙(ちから紙とも言う)が、合紙され、さらに効き紙と本文の1頁も合紙されている物があります。あまりにもピッタリと張り合わされているので、1枚の紙だと勘違いする人もいます。同様に裏見返しも貼りあわされています。これは、**加工側にとって極めて重要なポイント**となりますので、特に電話のみで説明する際には、伝えておかないと**見積り金額に大きな誤差が発生します**。その他スピン(しおり紐)が付くものも多く、時間と手間の掛かる作業となります。

最近見かけませんが、昔は鉛筆が手帳とセットになっていました。現在このタイプはあまり作りません。加工コストの問題が一番ですが、この鉛筆を挿す筒状のストローを作っている所が激減しているためでもあります。昔の刑事ドラマは、みんな警察手帳から鉛筆をだして聞き込みしていましたがねえ。。。



Tea break

除夜の鐘を聞き、今年も無事に過ごせたなと思いながら食べるのが、年越し蕎麦です。「蕎麦のように細く長く」という願いが込められていますが、江戸の金細工職人達が飛び散った金粉を蕎麦で練った団子で集め、それを焼いて金を取り出した所から『蕎麦は金を集める』という縁起の意味もあったそうです。なるほど、良い事言うじゃありませんか。

by (株) 井関製本